

みなみいせ

2012



22号
2012.2.1
議会だより



主な内容

- 平成23年 第4回
- 12月定例会…………… 2～4
- 一般質問…………… 5～15
- 地域活性化特別委員会
- 視察レポート ……16～17
- 町内絶景スポットほか ……18

未来へはばたけ

まちの宝ものたち!!

発行／三重県南伊勢町議会
〒516-0194 三重県度会郡南伊勢町五ヶ所浦3057
編集／議会広報特別委員会

第4回定例会

12月13日(火)～19日(月)開催

12月13日(火)から19日(月)の5日間にわたり、平成23年第4回定例会が開催されました。

平成22年度一般会計歳入歳出決算認定と、10件の平成22年度特別会計歳入歳出決算認定及び、一般会計補正予算をはじめ10件の補正予算案と、「南伊勢町総合計画基本構想の制定」他6件の条例案、「南島メディカルセンター」に関する工事請負契約変更と指定管理者の指定に関する2件の29議案の審議と、人権擁護委員の推薦に関する諮問3件、固定資産評価委員会委員の選任同意6件が上程されいずれも承認、同意されました。

また、議員11名による一般質問がおこなわれました。

補正予算

主な内容



特別会計

- 住宅新築資金等貸付事業
 - ・2万7千円を減額し、総額1,118万7千円としました。
- 国民健康保険
 - ・1億1,270万4千円を追加し、総額26億3,875万1千円としました。
- 介護保険
 - ・360万9千円を追加し、19億4,223万4千円としました。
- 簡易水道事業
 - ・41万9千円を追加し、3億1,306万6千円としました。
- 下水道事業
 - ・9,161万3千円を減額し、11億2,919万5千円としました。
- 戸別合併処理浄化槽事業
 - ・249万7千円を追加し、5,958万2千円としました。
- 後期高齢者医療
 - ・1,038万2千円を追加し、総額4億2,936万4千円としました。

一般会計

- 2億3066万7千円を追加し、総額では93億9018万5千円となりました。
- 土木施設災害復旧費 1億2,939万4千円
 - ・台風被害による河川10件、道路2件の復旧工事
- 水産業振興費 2,052万円
 - ・被災漁業者漁場料支援、漁場災害復旧支援、共同利用定置網復旧支援対策事業
- 生涯福祉費 1,113万8千円
 - ・かえで、かもめ作業所の自立訓練支援等の扶助費
- 観光費 769万8千円
 - ・海ぼうず屋上防水工事他、神前浦、贄浦のトイレ工事等
 - ・「たいみー」キャラクターグッズ開発関連事業
- 学校管理費 760万円
 - ・宿田曾小学校、南島西小学校のプール配水工事
- 河川維持費 750万円
 - ・古和浦、伊勢地地区河川改修工事費
- 農林水産業施設災害復旧費 496万円
 - ・道方の排水路、古和浦の農道復旧工事
- 道路維持費 492万1千円
 - ・道路維持管理委託料
- 林業生産基盤整備事業費 300万円
 - ・大紀南島線の整備費
- 職員研修委託料 35万5千円
 - ・年に10回程度の職員コンプライアンス研修費

平成23年9月16日、本会議において、会議規則第37条の規定により、平成22年度歳入歳出決算審議は各常任委員会に付託されました。

常任委員会委員長報告

総務財政

行政経営課・総務課・税務課・
会計課・議事事務局

【委員会開催日】

11月1日、2日

【付託議案】

認定第1号

平成22年度一般会計歳入歳出決算

【審議の主な内容】

- 文書広報費の減額補正の内容について
- ケーブルTVの活用と課題について
- 基金残高が20〜22年度にかけて約20億円増えているが活用は
- 一般管理費の委託料と使用料の不要額の内容について
- 県木造耐震促進協会との契約内容について
- たばこ税の当初見込みと現状について
- 税の未収状況について

【審議結果】

全員賛成で了とするものと決した。

教育民生

教育課・環境課・
住民課・福祉課

【委員会開催日】

11月7日〜9日

【付託議案】

認定第1号

平成22年度一般会計歳入歳出決算

- 平成22年度住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算
- 認定第3号
- 平成22年度国民健康保険特別会計歳入歳出決算
- 認定第4号
- 平成22年度老人保健特別会計歳入歳出決算
- 認定第5号
- 平成22年度介護保険特別会計歳入歳出決算

【審議結果】

認定第9号
平成22年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算

認定第10号

平成22年度病院事業会計歳入歳出決算

【審議の主な内容】

- 五ヶ所小学校体育館の改修は補助金対象ではないのか
- ふれあいセンター漏水問題について
- 火葬場施設工事の増額変更補正の理由について
- 住基ネットのカード利用者について
- 特定検診の受診割合について
- 子宮頸がん予防ワクチンの接種状況について
- 身体介護ヘルパーの人数について
- 看護師確保のための修学資金制度について
- 社会福祉協議会の運営状況について

【審議結果】

認定第1号については

賛成多数、その他認定については、全員賛成で了とするものと決した。

産業建設

上下水道課・建設課・
水産農林課・観光商工課

【委員会開催日】

11月1日、2日、4日

【付託議案】

認定第1号

平成22年度一般会計歳入歳出決算

- 認定第6号
- 平成22年度簡易水道特別会計歳入歳出決算
- 認定第7号
- 平成22年度下水道事業特別会計歳入歳出決算
- 認定第8号
- 平成22年度戸別合併浄化槽特別会計歳入歳出決算
- 認定第11号
- 平成22年度上下水道事業会計歳入歳出決算

【審議の主な内容】

- 賛浦、阿曾浦の浄化槽設置状況について
 - 水道管漏水調査業務委託料について
 - 中島簡易水道について
 - 光熱水費の不要額について
 - 上下水道の料金比較について
 - 墓地前橋、大久保橋の耐震工事費について
 - 河川の堆積土問題について
 - 過疎、定住対策として公営住宅の新築について
 - 後継者育成事業補助金について
 - 耕作放棄地対策について
 - 県単沿整事業であるクリアーウォーターについて
 - 観光商工課の現状について
- 【審議結果】
全員賛成で了とするものと決した。

『南伊勢町総合計画基本構想の制定』 が上程され承認されました！

【計画策定の趣旨】

- 新しい総合計画は、役場が行政を進めるうえでの指針としてではなく、「町民と役場が一体となって、新しい南伊勢町を創っていく」ための指針として、皆さんと役場が共有するものとして策定。

【計画の構成と期間】

- 基本構想の計画期間は、平成32（2020）年度まで、基本計画の計画期間は平成26（2014）年度まで。

1. 町づくりの基本理念	『町民起点のまちづくり』
2. めざす南伊勢町のすがた	『安全・安心を実現し、希望をもち誇れる南伊勢町』
3. 町づくりの基本姿勢	『町民が実感できるまちづくり』 <ul style="list-style-type: none"> ●自分からまちづくりをしている実感 ●ともにまちづくりを担っている実感 ●まちづくりに貢献している実感
4. 役場の基本姿勢	『町民とともに考え、ともに取り組む役場』
5. まちづくりの5つの目標	6. まちづくりのための基本的な政策
①安全で安心して住めるまち	<ul style="list-style-type: none"> ●誰もが安全に暮らせるまちづくり ●安心して住めるまちづくり
②希望のみつかるまち	<ul style="list-style-type: none"> ●産業が元気で雇用の場のあるまちづくり ●誰もが生きがいをもって暮らすまちづくり ●人とひとがふれあう交流のまちづくり
③新しい誇りをうみだすまち	<ul style="list-style-type: none"> ●美しい自然を守りともに生きるまちづくり ●大切な文化を次世代に継承するまちづくり ●誇れるまちの創造
④笑顔でいきいき暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> ●子供を安心して産み育てられるまちづくり ●子ども親も地域とともに学び育てるまちづくり ●誰もが文化やスポーツを楽しむまちづくり ●生活基盤の整ったまちづくり
⑤みんなでまちづくりを実現するまち	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなで創るまちづくり ●信頼される行政経営



山本周也 議員

なぜ起こった漏水問題

早急に対策を講じなかった責任を痛感している 町長

問 漏水がある事を
知った時期はいつ
頃か。

答 **町長・教育長**
9月補正の時、初
めて知った。

問 教育委員会の業務
上の過失はあるの
か。

答 **教育長** 町に対し
て大きな損害を与
えた責任を感じている。

問 責任はどこにある
と考えているか。

答 **町長** 最終的責任
は自分にあると認
識している。



漏水があったふれあいセンターなんとう

水道の有収率を 上げよ！

努力する

上下水道課長

問 上水道・簡易水道
の漏水防止を緊急
課題としてほしいが。

答 **上下水道課長**
早急に対応して有
収率の向上に努力する。

どうなるクリーンセンター

解体撤去の方向で 環境課長

問 大災害に備え、南
勢クリーンセン
ターの機能の維持が望ま
れるが。

答 **環境課長** 地元と
の約束もあり、解
体撤去の方向で考えてい
る。



クリーンセンター(船越)



岡本 眞 議員

もっとスピードを上げて！

急ぎたいと考える 町長

問

町としての地域防災計画の策定のスピードアップが必要と考

答

町長 一次避難場所は274を230箇所に見直しをした。防災意識の向上を目指し、この意識がまちの風土として根付くことを願う。



高まった防災への意識

急げ

マダニ対策を！

適切な対応を

農林水産課長

問

鹿などに寄生するマダニによる日本紅斑熱対策を急いでは。

答

農林水産課長 広報や回覧を通じ、情報提供を行なってきたが、今後も周知に努力する。

道の駅に関する検討を！

町民ニーズを見極めながら町長



人気の飯高町 道の駅

問

道の駅を拠点として地域づくりを企ててはどうか。伊勢志摩の連携、そしてともに栄える道を。

答

町長 検討していただく必要があると思う。



山本芳隆 議員

続けてほしいデマンドバス

本格運行を目指している 環境課長



6ヶ月間お疲れさまでした

問 実証実験の評価と課題はどうか。

答 環境課長 274
名のアンケート調査では97・8%が良かったと答えた。課題は電話がつながりにくい事だった。

問 地震・津波対策として防災ハンド無線機を保育所、小・中学校へ設置してほしい。

答 総務課長 避難所は地域と同じ場所になることもあり、配慮していきたい。

通信手段の確保を

配備を検討 総務課長



命をつなぐ防災ハンド無線機

在宅介護に 救いの手を

検討して いきたい 町長

問 在宅介護をされている方に、もっと手厚い支援をしてほしいが。

答 町長 財政状況を考慮すると長期的な検討が必要と考え、今後検討していきたい。



掛橋 靖 議員

防災対策の現状は

備蓄倉庫と防災照明を設置予定 町長



舗装整備が完了したみかん山（南島保育所附近）

問

当町では連動型大震災に伴う、大津波災害への防災対策が急務であるが、3月11日以降、現地視察も含め検証見直し、整備等を進めてきた進捗状況と今後の計画は。

町長 ①一次避難場所の見直しを行ない、260箇所の避難路整備工事を予定。防災備蓄倉庫は年度内に29地区に、避難所防災照明は24地区に設置予定。また、海抜表示も進めている。

②住民情報などのデータベースを、町外でバックアップし、庁内組織の充

実も検討する。災害時には対策本部機能を高台で代替施設として開設する。③災害時には消防団だけでなく自主防災組織の連携が必要。また、緊急消防援助隊や自衛隊の支援を受けるために、対策本部機能や通信連絡機能を整えなければならない。

定住対策としての教育施策は

小・中学校の教育の充実を図る 教育長

問

少子化、人口流出等、当町を深刻な問題が取り巻いているが、若者や若い世代の家族の定住策として、必要な教育施策は。

答

教育長 子どもの教育問題で家族で転出していかないように、小・中学校の教育を充実させ、学力向上のために様々な工夫をしている。「南伊勢町学力向上委員会」も発足させ、授業と



子どもたちに教育の充実を

家庭学習の一体化に取り組んで、学力で全国トップレベルをめざす。また、南伊勢高校では、就職支援員を雇用したり、学力向上と進学サポートを充実させ、生徒が希望する進路先を実現できるように支援する。今年度町職員の採用では、南勢校舎の新卒者を優先に一名を採用予定となっている。



西 則孝 議員

各地区の限界集落の見直しは

対象となる地区が増加する 町長

問

当町の総合計画が示され、基本構想と具体的な基本計画で構成されているが、
①10年先の限界集落の見直しは。
②区としての運営及び生活支援体制は。
③住民の行政参画により得られるものは。
④各種団体への補助金見直しは。

答

町長

①現在、限界集落は8地区あり、当町の人口推計の状況で推移すると、今以上に対象となる地区は増加する。

②区の運営に行政としてどう関わって支援していくかは検討課題。

③満足度の向上や自らの手でまちづくりをしている実感。

④一律に行なうのではなく、事務事業評価により成果や達成度を検証しながら行なう。また、事務事業評価の方法は、総合計画の政策・施策体系に基づき実施する。



総合計画審議会のような



日本紅斑熱 症状の一例

害獣による被害の対策は

人にダニを接触させないこと

農林水産課長

問

猿、猪、鹿等の害獣によるダニの被害の現状と対策は。

答

農林水産課長

マダニは野山や畑、草むら等の野外に生息しているが、全て病原体を持っているわけではない。人にダニを接触させないのが最善であり、寄生主の鹿等を追い払い、駆除することが重要。



澤村 圭也 議員

公共施設の高台移転は

安全な場所へ建設したい 町長



二次避難場所となる南島中学校

問 ①二次避難場所は、各区にあるのか。

②公共施設の高台移転の計画はあるのか。

答 **町長** ①各区にある。②

水も、3日分を備蓄している。②今後、建設する公共施設は、住民の利便性も考え、できれば安全な場所へ建設したい。



整備が望まれる森林

森林整備は

間伐や受光伐を実施していく

農林水産課長

問 本町の約85%を森林が占めている。整備と活用できる環境をどうするのか。

答 **農林水産課長** 整備として間伐、受光伐の実施をしていく。活用については、バイオマスエネルギーとして活用、たい肥化や菌床きのこ等の特用林産物による広葉樹の活用を考えている。

受光伐の実施をしていく。活用については、バイオマスエネルギーとして活用、たい肥化や菌床きのこ等の特用林産物による広葉樹の活用を考えている。



手塚 征男 議員

不明金問題の調査結果は

公金横領である 町長

問

① 調査の結果、公金の使用を認められた人は、何人いたのか。
② 公金使用の指示は、当時の町長が行なったと言えるのか。
③ 法的時効にさせない手続きをしなかった理由は

答

町長 ① 一人である。

② 町有地の売買等に関してなされた指示は、町長の指示と考えるべきものである。
③ 確定的な証拠がなかったためである。



漏水があったふれあいセンターなんとう

ふれあいセンター大量漏水問題は

職員の責任を問うこともある 総務課長

問

① 漏水問題に関係した各課の検証は。
② 町職員が町民の財産に大きな損失を与えた場合、町はどう対応するのか。

答

総務課長 ① 各課関係職員から聞き

取りを行ない、それを基に懲戒審査委員会に向けての聴取書の作成と検証を進めているところである。

② 職員に服務規律義務違反があれば職員の責任を問うことになる。

防災問題、職員の対応は

問題はない 総務課長

問

① 12月4日の防災訓練にあたり、南島保育所から役場に支援を申請したことへの職員の対応について。
② 一次避難場所になって

答

総務課長 ① 「保育所に支援に行かないことも想定されるので、他からの支援を考えると保育所で確実に避難する体制を考えてください」と職員が話しをさせていたということである。

③ 神前14組地域の水門が、土砂で閉まらない。

② 職員が現場で確認したところ十分聞こえた。
③ 神前14組地域の水門に、異常はなかった。



大通寺裏山への避難路



岡田和夫 議員

人口減少に対する認識が弱いのでは

非常に深刻な問題と認識している 町長

問 総合計画（案）の基本構想において、人口減少の問題に対する認識が弱く、今後の対策が不十分ではないか。

答 町長 当町にとって非常に深刻な問題と認識し、重要課題として対策を講じていく。新しい総合計画では、若者の定住や一次産業の振興、雇用の問題、教育、子育て等、まちづくりのための様々な政策に取り組んでいく。

問 三陸各市町を視察し、防災対策が急務と考えるが、医療と介護体制の確保は。

答 町長 町立病院を高台移転させ、南島メディカルセンターとともに被災時の医療・介護の拠点となるような体制としていきたい。

災害時の医療と介護の確保は

町立病院の高台移転を

考えている 町長



南三陸町 志津川病院



南島メディカルセンター

問 保健・医療・介護を一体化した包括的地域医療の体制づくりについて、計画を早めて町立病院と老健施設の工事着工をやれないのか。

答 町長 現時点では「南伊勢町保健・医療・介護の一元化ビジョン」の素案作りをしている。また一元的な管理システムの構築と合わせ、町立病院を地域医療、介護の拠点施設として早く整備したい。

保健・医療・介護の一体化は素案作りをしている 町長



田中喜一郎 議員

実情にあった振興策の進め方は

県・関係市町と連携していく 町長

問 県は「南部地域活性化プログラム」を進めるにあたり、1万人アンケートをとったが、町はどの様に考えているのか。

答 **町長** 1万人アンケートの上位5項目については重要な問題、課題であり、新しい総合計画に基づき県や関係市町との連携により解決を図っていきたい。



県知事との懇談

観光・産業振興を広域で

強力に観光宣伝を行なっている

観光商工課長

問 観光、産業振興を広域で連携していくにあたって今現在、またこれまでに行なってきたことは。

答 **観光商工課長** 伊勢志摩コンベンション機構に職員を派遣し強力に観光宣伝を行なっている。県全体の中では、県観光連盟に加盟し、南部地域では、東紀州地域とともに観光宣伝を行なっている。



町のキャラクター「たいみー」登場

「たいみー」今後の活用は

町内外での活用を考える 観光商工課長

問 今回、町のキャラクターとして「たいみー」がつくられたが、今後の活用をどの様に考えているのか。

答 **観光商工課長** 町の合併から5年がたち、「たいみー」がつけられ、現在町内外のイベント等に活用している。また、総務課で商標登録を進めているところで、デザインを使用した商品販売等ができるように、使用許可の要項をまとめている。



上村康廣 議員

原発への考えは

町づくりの構想にない

今後もしも入れない町長

問 当町に、原発を作らせないための努力はどうしていくのか。

答 **町長** 近い将来、東海・東南海・南海地震の同時発生の可能性も高いと予測されている地域への原発の立地は考えられないと思っ

問 松阪、紀州方面への通学者や通院者が増加しているが、公共交通機関がない為、困っている人達がいるが、JR伊勢柏崎駅まで交通の確保は考えられないか。

答 **町長** 町外への町営バスの運行については、道路運送上、無償でなければできないことになっている。有償運行である町営バ

町営バス運行を

町営以外の

手段を検討 **町長**

ス等との整合性について問題が大きいこともあり、伊勢柏崎までの運行は難しいと考えており、町が運営する以外の交通手段の確保という観点からも検討したいと考える。

二次避難場所の現状と今後

住民とともに考えていく

町長

問 二次避難場所の現状と今後の見通しは。

答 **町長** 二次避難場所に指定されている施設は52施設あり、可能収容人員は1,4000人、20メートル以上は、10施設、3,500人となる。

二次避難場所となる保育園・学校など高台へ移転すべきと考えている。地区の集会所、公民館が、生活エリアから離れた高台にあるのは、利便性に欠けるのではないかとと思うところもあり、住民とともに考えていかなければならない課題である。



防災倉庫が整備された二次避難場所（下津浦）



通院手段の一つ町営バス

上村議員は一月三日、不慮の事故により逝去されました。つつしんでご冥福をお祈りします。



東 伊久雄 議員

鳥獣害に対する対策強化を

毎年強化を行なっている 町長

問 一次産業衰退の要因でもある鳥獣害への対策強化の考えは。

答 町長 毎年強化している。本年度も県が開発した追い払い用の花火の様なT3や福井県が開発したドロップネットなどの導入を行なっていく。

問 獣害対策は継続性が重要と考えるが、今後の取り組みは。

答 町長 更なる対策をとっていきたいと考える。特に追い払いに関しては、各地での成功事例を見ても地域ぐるみの継続した取り組みに効果があると聞いている。有害駆除にも一層、力を入れていく必要があると考える。



効果があがっている獣害対策

衰退する一次産業の打開策は

各団体と連携、検討を進めたい 町長

問 本町の基幹産業である一次産業は衰退一方という状況である。打開策をどの様に考えるか。

答 町長 これまで様々な取り組みがなされてきたが決定打になっていない現状であり、総合計画ワークショップの中で、いろいろな意見が出されており、実現に向けて県、農協、漁協や産地協議会、商工会、観光協会等とより一層連携し、検討しながら進めていきたい。

ICTVによる町民への周知を

検討していきたい 町長

問 ICTVで物づくりの放送がされているが、加工品、ブランド認定品等の紹介をし、もっと町民にも周知できないか。

答 町長 物づくりの放送部分を、ブランド認定品等の物づくりや産物の周知に活用できるようにブランド委員会、商工会、商工業者等と協働しながら検討していきたい。



町認定 南伊勢ブランド品

視察報告

平成23年11月15日～16日

11月15日(1日目)

午前5時、南勢庁舎を出発し、千葉県へ向かった。館山道をしばらく走り、「道の駅 富楽里とみやま」に立ち寄る。1Fは一般道から入れる仕組みになっていて、地元農産物を中心に地場産物の直売所となっている。2Fとは、階段で結ばれ、漁協直営の海鮮レストランや、4店舗が入った食事処があり、屋内や屋外でも食べる事が出来る。1Fの駐車場には高速



道の駅 富楽里とみやま

バス利用者専用の駐車スペースが準備されているので、駐車後、2Fのバス停から高速バスで東京に向かうことができる。(この地域の人々は、東京へ行く手段として高速バスを利用するらしい。) この「道の駅 富楽里とみやま」は、ただ物販だけにとどまらず地域に暮らす人々の生活の不便さまでカバーしているから素晴らしい。目指す「道の駅とみうら」まではもう少しで着く。待ち合わせ時間より早目に到着して、あらかじめ駅内を見学しようと思発した。

南房総市富浦町「道の

駅とみうら」に到着。枇杷倶楽部 駅長 鈴木賢二氏に話を伺う事ができた。「道の駅とみうら」は、平成4年頃から産業の活性化を目指し建設計画が立てられ、平成5年10月にオープンした。富浦町は当時人口約5,000人、民宿の発祥地と言われ南房総に海水浴に来る人々の宿として生計をたてる人々が多かったが、館山や、ちくらに行く人々の通過点で素通りが多かった。「道の駅とみうら」では、まちの特産品であったピワを素材として使っていく事になったが、農家とお客様、枇杷倶楽部との間に考え方の違いが生じた為、自分達でピワをつくる事から始めた。成果は少しずつ見えてきたが「道の駅とみうら」は富浦町が100%出資の第三セクターであったため、「税金を使って作った会社が住民を苦しめるのか!」とのクレーム等があり、地域外からの観光客を呼びよせ、俱

楽部の運営も地域の産業も共に栄える道を選んだ。ピワの活用は当時、生食だけであったが、周年販売を考え、加工したオリジナル商品の開発にのりだした。オープン当時議会は、5年くらいは赤字でもいよいよと言ってくれたが、従業員は黒字を目指して必死に頑張った。その甲斐あって当初から黒字となり、19年目となる今年まで連続黒字で推移してきている。東日本大震災以後急激な落ち込みがあったが、少しずつ客はもどってきた。観光の仕方の移りかわりか、近年バスツアーは激減し、今後2～3年は、きびしい時代が続くのではと思っている。

富浦町は、過疎と交流人口が激減した町であったが、出荷できないピワを使った商品の開発に力をいれ、葉っぱや種までも活用した。農家から購入した原料をピュレ状に一次加工し保管、今年には23トンになる。商品は、ピワジャム、シロップづけ、ピワのソフトクリーム、お茶など40アイテム程ある。粗利益率は46%。市内に道の駅は7つあって、それぞれがコアとサテライトの関係で互いに情報提供し合っている。ネットによる情報の共有にも務め、年200万アクセスある(ちくらが核)。特級の資源はないが、小さな資源でもまわりの地域全てを資源と考えて周囲の地域も共に栄える・・・をコンセプトにしている。また、利益の上がっている部門から低い部門を補う考え方から、互いに支えあう心を常にこころがけている。

ピワ狩りに来たお客様には、倶楽部ではピワを売らず、ピワは農家で買ってもらう。客単価は、1,300円～1,400円(レジを通した人)。共に栄える為に、安房道の駅連絡協議会を結成し、経費は出来る所から負担をし、苦しいところも一緒に参画している。最初は反対していた人達が、客層が違うねと枇杷倶楽部の生き方を支持理解してくれる様になった。

新しい産業と文化を育てるために補助金の活用は、とてもスムーズにいった。

- ・農産物直販型の道の駅は成功しやすい。
- ・近隣に大きな人口があれば、客は流れる!!
- ・南伊勢にとって伊勢神宮の存在は絶対有利な条件、やり方次第!!
- ・第三セクターは地域に貢献する事が主である。
- ・株主の利益を目指し、利益は地域(株主)に返す



鈴木賢二氏に話を伺う

ことなので、利益は役所に還元してきた。

「道の駅とみうら」では、皆が大きな収穫を感じ、潮風王国ちくらに向った。

11月16日(2日目)

8時前に宿舎を後にし、東京に向う途中房総半島を調査した。この地域は色々ところで地場産品(農水産物)の直販所があり、少し話を聞いてみると、「農協へ出荷した残りの品を安価で売らせてもらっています。10%のマージンをいただいています。これ以上とると生産者に迷惑をかけますので一軒(戸)あたり月7万円くらいになりますから、小遣い銭かせぎくらいには充分かと思いません。」との事。

午後3時から東京で国交省を交え「道の駅」設立についての勉強会。国交省道路局国道防災課長補佐荒瀬美和氏からの助言は以下のとおりである。

・道の駅の目的は、道路

利用者への安全で快適な道路交通環境の提供並びに地域の振興に寄与することである。

・地域に道の駅設立計画があれば、国道事務所・

(国)交通対策課(国)、道路管理課(国)へ相談を・・・。

・市町としては、地域をどの様にしたいか、より良くする為に道の駅をどの様に活躍(生かして)させたいか。

・総合計画に組み込んでいく事も大切。制約はないと思えばよい。

・防災機能を重ねそなえ、地域の人々に身近な存在となる事も一つの方法ではないか。

・自衛隊の前線基地としての活躍例もある。

・最も大切な事は、コンセプトである。

・地域連携機能を有さない成果が上がりにくい。

・国としては、地域振興の点では後はまかせっぱなしである。

「道の駅 とみうら」 駅内



・売上げが多いか地域振興にどれだけ役立つているか。

・指定管理者で運営しているところもある。

・体験の出来るところもある。

・廃止になった例は全国で1カ所だけ。

・[理由は土地(用地)の貸借のため]

・一体型と単独型がある
・社会資本整備総合交付金1/2を活用する。

・他地域振興施設○○○等様々な利用でできる制度がある(ソフトも含む)。

・他農水省、経産省関連の補助もある。

・それぞれが分担をして責任を果す事が大事。

・防災トイレの設置も可

・missing link(ミッシングリンク:分断された鉄道や道路のこと)の解消を早くすべきだ。

今回の視察研修は大きな成果があった。

1. 「道の駅」のもたねばならない3つの機能を上手く活用する事により、地域の連携と活性化がはかれる。地域は1つの地域だけが活性化するのはなく、近隣と共に栄えてこそ価値があり、真の活性化が深まる事といった枇杷倶楽部の考え方やこれまでの活動状況、そして今後の課題への取り組み等を話していただき、よく理解ができた。点と点を線で結ぶ:。どうすればこの事が可能になるか少しわかりかけてきた気がする。

2. 「道の駅とみうら」は当時の富浦町が100%出資の第3セクターでこの事業を行ってきた。色々な紆余曲折があった事だろうが頑張っただけで5,000人の町を元気にした。その取り組みや姿勢は町民のみならず近隣の市町にまでも影響を与

え共に榮えている。

3. 私達の町が元気になる為には伊勢志摩の地域が、今よりもっともつと連携をし互いに助け合いながら、共榮していかなければならない。互いに刺激をし合いながら、又、影響されながら、より向上し中京地区、京阪神方面から訪れるお客様を増していく、人の流れが出来る。スムーズに流れる事により、よどみがなくなり、全ての地域が元気になる可能性が出来る。その為の拠点として『道の駅』をつくる事が近道のような気がする。



みなさん、知っていますか

南伊勢町の美しい滝

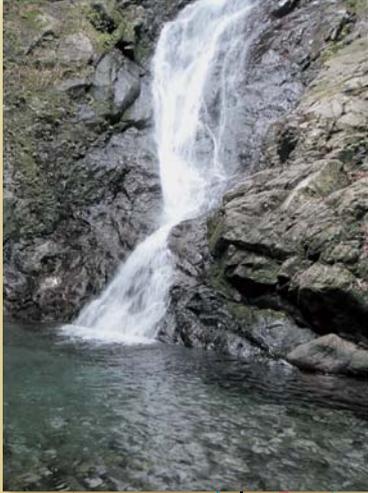
こうじや
神地谷七つ滝



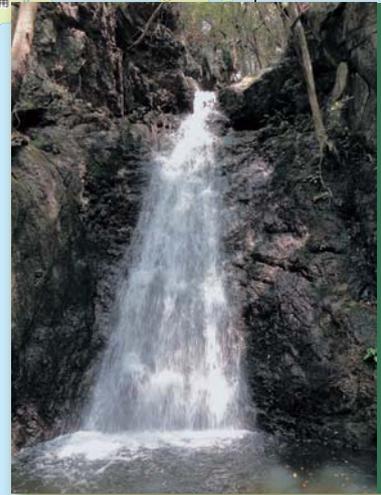
河内 不動の滝



村山 不動の滝



切原 白滝



議会を傍聴 しませんか

3月定例会が開催されます。是非傍聴してください。

(当日、総務課で受付をすればOKです)

議会広報特別委員会

委員 林孝充	副委員長 畑芳弘	委員長 掛橋和久
委員 岡本真	委員 松葉靖	委員 和久

議長 上村久仁

☎ 0599-661781
議会だよりについて
のお問い合わせ等は、議
会事務局までご連絡く
ださい。

辰年の初日は少し雲にさえぎられながらも望むことが出来ました。三が日も穏やかな日々でありました。今年はいったいどんな年になるのでしょうか。大地震の発生する確率が非常に高いなか、みんな「絆」を大切に「備え」をしっかりとねばなりません。頑張りましょう。明日のために！

編集後記

